

## 片芝 雄一 氏 学位審査結果の要旨

主査：木梨 達雄

副査：上野 博夫、藺田 精昭

ウイルス感染や自己免疫疾患などで生じる核酸は樹状細胞などに作用して様々な免疫反応を惹起することが知られている。これまで一本鎖 DNA, あるいは RNA の効果についてはわかっていたが、二本鎖 DNA の樹状細胞への効果は不明であった。片芝氏は初代ミエロイド系樹状細胞(DC)あるいは単球由来 DC を用いて二本鎖 DNA を導入する方法を検討し、サイトカイン産生への効果を調べた。その結果、リポソームによって二本鎖 DNA が効率よく細胞質に取り込まれること、また細胞内局在やクロロキンの効果により Toll-like 受容体非依存性に共刺激補助分子 CD86 の発現が増強すること、さらに一本鎖 RNA が IL-12 を産生誘導したのに対して、二本鎖 DNA は I 型 IFN の産生を誘導することを示した。これらの結果は、単球由来 DC を用いた樹状細胞療法に資する結果と考えられる。よって学位に充分値すると判断した。